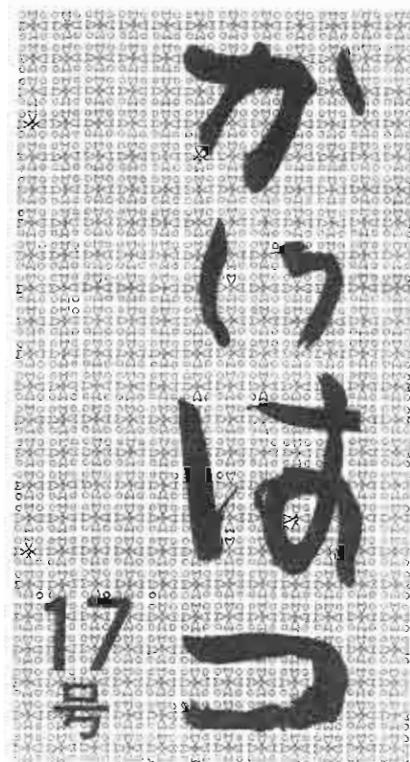


子どもと親のつどい
運動会



(題字 広幡小1年)

岡崎市特殊教育
推進協議会

(昭和62年10月17日発行)



大人になったら

竜美丘小学校校長
近藤 保

「みんな大きくなって、大人になったらどんな人になりたいのかな」と、子供たちに尋ねて見ました。

「いいなあ、みんな大きくなって自分の考えているような人になつたら、ほんとうにいいね。みんなが大きくなったときの姿を、先生は見たいなあ。」私が言いますと、由希乃ちゃんが、言いました。

「先生は、そのときどんな人になっているの。」

「さあ、もう死んでいるかも知れないなあ。」

直樹くんが、

「先生、死んだらあかんで。ぼくの子と話合っています。」

「私は、看護婦さんになりたい。」

「どうして看護婦さんになりたいの。」と尋ねますと、

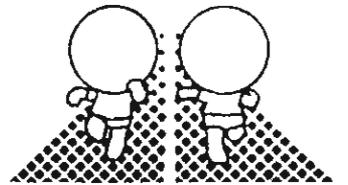
「病気で困っている人のお世話をしてあげるの。」と言いました。

亜矢ちゃんは、やさしい子です。の言葉を聞き、私は嬉しくてたま

「私はお母さんになりたい。」と言っ

りませんでした。

ど う か い



さる九月十四日、市内二十一小学校、十二中学校の特殊学級に学ぶ子どもたち一九六名、母親一五四名が集まり、多くの来賓の方々を迎えての子どもと親のつどい運動会が行われました。

消防音楽隊のおじさん、おにいさんの演奏にあわせ、堂々の入場行進からはじまった運動会。

今年も大きな思い出をいっぱいつくって、絵や作文に表現しました。

プログラム

開会式	全
演技	全
1 たいそう	全
2 たまいれ	全
3 かけっこA	小・低
4 大漁だ	中・親
5 かけっこB	小・高
—— 昼食・作品展 ——	
6 野こえ山こえ	中
7 いなばの白うさぎ	小・親
8 徒競走	中
9 ジェンカ	全
閉会式	全



さあはじまるぞ



たいりょうだ

くやしかった

ジェンカ

井田小 六年

運動会で、まずきいしょにうれしかったのは、「玉入れ」で一番になったこと。次に、もつとうれしかったのは、「かけっこ」で一番になったことでした。

ぼくがくやしかったのは、「ジェンカ」でした。一回めは中学生とあたり、ぼくがピイを出したら、ペアを出してくれたので助かりました。二回めは、友だちのさきちやんがパーを出し、ぼくがグウでした。その時、しまったと思いましたが、ぼくが、ピイを出しておれば勝てたのになあ。

みんなとやった

うんどうかい

矢作東小 三年

バスにのっていききました。「うさぎとかめ」をやりました。おかさんとやりました。

「たまいれ」では、きいぐみがかちました。ばんざい。

「かけっこ」では、くみがばんざい。

みんなでおべんどうをたべました。すわるころがぎゆうぎゆうでした。

みんなとやったうんどうかい。たのしかったです。がんばった。



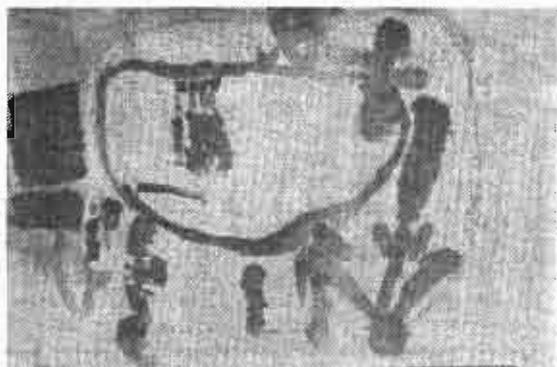
羽根小 三年



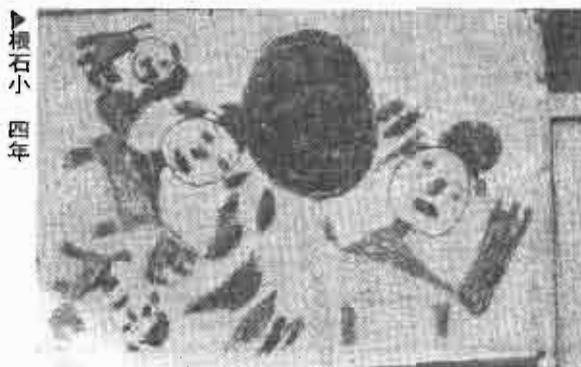
緑丘小 五年

子どもと親のつどい

うん



男川小 五年



黒石小 四年

運動会

六ツ美中 二年

ときようそう

新番山中 二年

本部たより

四月からはじまった運動会の準備、たびたびの推進委員会での打ち合わせ、器具製作 その時、いつも、どの先生の心の中にも、子どもたちの姿があった。

今日は、朝からうきうきしていた。バスはもう校門にきていたので走っていった。わたしはなんにでもがんばろうと思った。

「玉入れ」は、あまり入らなかつたけど「野こえ山こえ」は、大久保さんといきが合つてはよかった。

「大漁だ」は、なかなかつれなかつたがおもしろかった。次の「徒競走」では、わたしは一番になった。

帰りに、いろいろな賞をもらった。メダルなんか初めてなので、とてもうれしかった。



レッツスキップ



図画作品もせいぞろい

ぼくたちは名鉄バスの二号車で市民たいいくかんへ行きました。さいしよにかいかい式がありました。しようぼうのおじさんがラッパをならして、入場こうしんをしました。とても大きな音がして

つぎに玉入れをやりました。中学生と小学生はいろいろが一位になりました。でも、おかあさんたちはまけてしまいました。

ぼくはときようそうで二位になりました。きう年は一位になりましたけど、今年はさんねんです。らい年は一位になります。

（持てる力を精一杯発揮できるだろうか。）
（安全性はよいだろうか。）等々。
当日をむかえ、子どもたち、親子、来賓の方々のたくさんの方々の笑顔を見ることができた。

ゴールをめざし真剣に走つた「かけっこ」「徒競走」力をあわせての「大漁だ」「いなばの白うさぎ」。全員参加の「たいそう」「玉入れ」「ジャンカ」。

今年初の試みとして、作品展もあわせて実施され、市内三十三校一九七名の絵の交流が行われた。「ありがとう」と「さようなら」の声をひびかせて、楽しく充実した一日が終わった。



学級紹介

読書で苦しい毎日を耐えた〇児

梅園小 院内学級



ベッドサイド学習の〇児

「先生おはよう。今日はどんな本持ってきてくれたの。」

「足をニキログラムのおもりで引っぱって絶対安静、食事も用便も寝たまま、いつも母親がつきそっている。入院以来はや二ヵ月のベッドサイド学習が続いている。」

上をむいて寝たきりです。ごすことは全く大変な苦行である。整形外科の病室の個室（四〇八号）での生活は孤独で寂しい。母親以外に話す人は病室を訪れる医者や看護婦ぐらいである。

入院している子どもは、学年差、能力差があるので、個人指導の形をとっている。病弱であるため引つ込み思案であつたり意欲に欠け消極的になりがちである。

この子どもたちが楽しく学習に取り組み、原籍校へもどつたとき級友の中へ能力差・学力差がなく入っていきける手だての工夫が最も大切なことと考えている。さらに病弱である子どもたちには負担のかからない指導を心がけている。

一の子らの進路

市内での実態のまよめの一端を紹介し、今後のお役に立てばと思ひます。

半数の生徒が進む就職について雇用していただける求人者を考えますと、第一に、生徒をよく理解していただければ親のような心遣いで雇用していただける求人者、第二に、この子らが働ける職域を雇用主が考えていただけるという好条件が揃い、しかも生徒が社会参加自立の意欲が高いことなど整つた結果が就職決定となる場合などがあるわけですね。こうした雇用主、職場を探すのが進路指導の第一歩です。市内の同じような生徒を担当してみえる先生方が情報交換をし、お互いに援助し合い指導を進めているのが現状ですが、最もむつかしい仕事の一つです。毎日、生徒と一緒に学習に取り組みながら、子どもの社会参加していく能力を伸ばし、自立しようとする意欲を高めるための工夫や努力を一層していかなければならないと思ひます。

教室だけでは理解しにくい社会の厳しさなどを、先輩の職場見学によつて知らせるような努力や、

教室内で作業学習をさせることなどで今後一層社会参加への道を開いていく実践を続けていくことの大切さを思ひます。また、就職後かぎり欠かすことはできないことでもあります。

今後、一、二、に該当するような雇用主を探し、開拓していくために、親・教師が一体となつて、力を結集して、この生徒たちの進路を探し求めていかねば道は開けていかないのであるかという実感感を強くもちます。

進路状況 (市内全体)

	合計	その他	就職	春日台	さくら	安養	附養
昭60年	30	4	12	5	4	1	4
昭61年	23	1	12	2	2	4	2
昭62年(希)	22	3	11	1	2	2	3

(進路指導部 柴田九二男)

なかま

育てる

常盤小

林 博子

「先生、また、白ちゃんが卵を産んだよ」

「えつ、またあ……」

四月当初、A子は、「あのね、つがいのインコ飼ってみようよ。家にいっぱいいるから持つて来るで。」

と、控え目ながらも、目を輝かせて言ったのだ。即座に答えた。

「ありがとう。飼ってみようね。」

それから、インコを中心に、学校生活が展開されたと言つたら、大げさ過ぎるだろうか。共通話題に、作文の題材に、画題に、飼育にと、インコ君たちは、わがクラスの中で大きな地位を保つに至つたのだ。一羽ずつの特徴をとらえての名前も、いつしかつけられた。「あおい」「キナ子」「シマ」などだ。卵から、ヒナにかえるごとに鳥籠もふえる。四つ目の鳥籠が加わる日も真近い。

県外研修報告

山口大学附属養護学校
 七月二日から四日にかけて、林校長先生をリーダーとして、四名で研修視察した。

学校では、「学習者個々の心理特性に応じた学習指導の改善」という研究テーマに基づいて、個人指導プログラム、個々の学習者の指導内容を、領域、分野として組織、従来の学年令による学級を廃し個々の到達可能程度を主な視点として、生活集団

を組織した指導がなされている。参観して感じたことは、さまざまな角度から、ひとりひとりの子供について理解していた。とである。それは枚数の「個人カ ルテ」からも察することができた。設備面からも、ブレイルーム、入浴施設、各教室には洗面所と鏡があり、生き生きと学習していた。何よりも子供の瞳がすばらしかった。

三教研夏季研修会

八月五日・六日、新城市の県文化会館において、夏季研修会が行われました。桜洲公園には約二〇名の先生方が集まり、盛大な研修会となりました。

開会行事にひきつづき行われた分科会では、岡崎地区から、美合小の倉島千賀子先生が「ともに育つ交流教育をめざして」、竜南中の木河淳治先生が「自閉症児A君の生活指導」というテ

ーマで題案をされ、日々の実践の努力や成果が話し合われました。他に「日記」「ことば」「教」

「生活單元」「生活」「運動能力」「作業」の分科会もたれ、どの分科会も熱の入った話し合いが続きました。

六日には、県総合保健センターの国島喜久夫先生の御講演もあり実り多い研修会でありました。

研修報告

実技講習会

暑さも真盛りという感じを受ける八月三日、特殊教育夏季実技講習会が美川中学校で行われました。受け付けでは、各校の先生方が、久しぶりに会った仲間の方々と親しい挨拶を交わす場面も見られ、暖かい交流の場となりました。

会場では、机に並べられた手作りの道具が、先生方の手から手へ渡り、思い思いの作品へと粘土が形を変えて

行く様は、見ていても頼もしく味わい深いものだったような気がします。どんなに不細工に仕上がった作品も、なぜか愛しく感じるものです。慣れぬ手つきで、二わこ粘土をこねる様子も同じ目標に立って物が見られ、たような不思議な気持ちでした。

束の間の時を、仲間とともに過ごせた満足感が、実技講習後の先生方の表情にうかがわれたような気がしました。

自主研修会

まだまだ暑さの残る八月二四・二五日、桑谷山荘において、特殊教育部会初めての「泊り自主研修会」が行われた。

「臨教審」「中教審」における特殊教育の位置づけから、普段の先生方の指導上の悩みまで、多面にわたる話し合いがなされた。泊り込んでの会ということも、時間にとらわれることもなく、眠るのも忘れ、楽しく、内容の濃い話がくりひろげられていった。

「和気あいあいとした雰囲気の中、寝食をともにしながら学習できたことでよい刺激となりました」

「先生方の姿勢の中に（学校へ帰れば特殊教育級担任は自分である）という厳しさが感じられた」とも、多くの先生方のお話をお聞きできるともよかった。などの意見も出され、今後の広がりも期待されることである。

悼 故 鈴木滋先生

先生は昭和四二年より岡崎の特殊教育一筋に活躍されました。その間たびたび特殊教育部の世話係（主任）としてその重責を果たされました。特に退職（昭和六一年三月）の年にも主任を引き受けていただき、常に部会をリードされたことは忘れることができません。先生が継られたプリント類は一寸違わずきちんとまとめてあり、先生のお人柄を偲ばせるものであります。その冊子は特殊教育の歴史を物語る重要な資料となっております。



退職後は「子供の家」に勤めながら、特殊教育部の活動にも気を配ってくださいました。

あまりにも早い御逝去（昭和六二年五月）はただただ残念の一話につきまます。

御冥福をお祈りします。合家

随想

岡崎の特殊教育の思い出

愛知県立安城養護学校 柄澤 清弘

私が岡崎市の特殊教育に直接携わったのは、昭和四十一年四月から五十年三月までの九年間であったと思います。その間、数多くの諸先生に接し、実に多くの御指導を頂いたことを有難く感謝しております。私が、特にお世話になりました先生は、羽田洋、鈴木正弘、教育長、浅井善一、奥村忠吉、石井卓夫、渡辺尚三校長先生、職員一夫、大山康夫先生といった方々です。

昭和四十年代の岡崎市における特殊教育は、県内の中で先進的な考え方「促進学級経営」を基盤におき、一人一人を生かす指導に力を注いでおりました。本市の特殊教育推進研究協議会は、他市町村に先がけて設置、運営された機関で、特殊学級入級判別に大きな役目を果たしてきました。これは確かです。養護学校義務制施行前のこともあり、特殊学級運営については数多くの困難な問題が山積しておりました。特に、このことは、学校教職員、保護者、児童生徒の理

解が十分得られないために、特殊学級入級問題や普通学級と特殊学級の関係や特殊学級担任の校内孤立化などの問題がありました。その当時を振り返ってみますと、障害児に対する差別や偏見は、日常的に見受けられることが多かったですように思います。このことは、私自身、特殊学級担任を学校長より命ぜられた時に即答して受けなかつたほどだからです。ある人は「特殊学級担任をするからには、本心に相当な覚悟をしないと行かない」という言葉を耳にした事がありました。今から考えると考

えられないようなことでした。特殊教育に関する考え方や情報については、今のように専門書がほとんど皆無であり、自分の指導実践を積み重ねていくことが重視されてきました。このことは、現在でも大切なことだと考えています。特に愛知教育大学附属養護学校の「学習意欲と能力差」を基盤として、いろいろな指導実践を

していく思潮が、その当時の特殊教育界を占めていたと思います。昭和四十五年に学習指導要領が改訂され、生活科、養護・訓練の新設により、現在の特殊教育へと大きく発展する原動力になったと考ええます。

石井卓夫校長と大山康夫先生がよく話をされていたことは、岡崎市立養護学校の設立、特殊学級の集中設置、入級判別の効果的な方法、教員の研修活動の内容と方法などでありました。

これらの問題は、経済的な諸問題もあり、十分な解決策を見ないままになってしまいました。熱意と努力により、岡崎の特殊教育のために微力ながら頑張ったことをなつかしく思い出す昨今です。



学級スナップ

元気ががんばる南中生

十一組、一年一人、二年一人、三年二人の四人の仲の良いクラス。十二組、二年一人、三年二人の三人の元気なクラス。両方合わせて、七人の個性豊かな仲間たち。

しいたけの森で、しいたけやひらたけを栽培し、じょうろで水かけを行ない、協力して世話をしています。バーベキューを楽しみにしています。

また、毎日縄跳びやランニングをして、体と心を鍛えています。すごいでしょう。みんな互いに、やる気と思いやりを育てようと、努力しています。



岡崎市 就学指導委員会

市就学指導委員会は一三名の専門委員（小児科医・精神科医・心理学者・児童相談所・市福祉部・特殊学校長・市立学校長）と二名の協力委員（特殊学級担任）とで構成し、年間を通して活動している。

■年間活動計画

- 五月 就学指導説明会
- 六月 養護学校見学会
- 七月 第一次教育相談会 七日間
- 八月 障害児実態調査
- 九月 特殊学級見学会
- 十月 第二次教育相談会 七日間
- 十一月 就学指導委員会（就学児）
- 十二月 就学指導部会
- 一月 就学指導委員会（在学児）
- ◎障害児の親の会「ひまわり会」の協力を得ながら進めています。
- ◎本年度の就学児（心身障害児）は四五名になる見込みです。
- ◎教育相談を必要とする児童（養護学校へ転校・進学を検討される児童）がいたら資料とともに申しこんでください。